

きぬさやか 大豆の青臭みの原因となるリポキシゲナーゼが全て欠失し、強いえぐ味のアセチルサポニンも欠失しており、豆乳に好適な品種。

1 品質特性

- ・外観品質は「スズユタカ」並で、子実注の粗蛋白及び粗脂肪含量はそれぞれ中です。
- ・子実中の全てのリポキシゲナーゼ(L-1, L-2, L-3)とグループAアセチルサポニンを欠失しています。
- ・豆乳や豆腐の加工適性は良好で、豆乳や豆腐は青臭み、えぐ味が少ないです。

品 種 名	粒の 大小	粒形	種皮色	へそ 色	裂皮の 難易	品質	粗蛋白 含有率 (%)	粗脂肪 含有率 (%)	リポキシゲナーゼ アイソザイム の有無	グループA アセチルサポニン の有無
きぬさやか	中	球	黄白	黄	易	中の上	40.9	19.8	全欠	欠
スズユタカ	中	扁球	黄白	黄	中	中の上	40.6	19.8	全有	有
すずさやか	中	扁球	黄白	黄	中	中の上	40.0	19.6	全欠	有

1) 審査基準国際統一委託事業調査報告書(平成16年3月)による。

2) 粗蛋白及び粗脂肪含有率は平成14~16年の平均。

豆乳及び豆腐の官能評価

	見た目	食感	風味	青臭み	えぐみ	甘み	総合評価	
豆乳	1.3	1.5	1.1	1.7	1.5	0.6	1.0	
豆腐	1.1	0.7	0.6	0.8	1.0	0.6	0.6	
評価基準	↑2	良い	良い	良い	ない	ない	ある	良い
	0	同じ	同じ	同じ	同じ	同じ	同じ	同じ
	↓2	悪い	悪い	悪い	ある	ある	ない	悪い

注) 1. 東北農業研究センター委託消費者モニター52名による官能評価。

2. 評価は輸入大豆を使用した市販品を基準(0)として比較した時の全モニターの平均値。

2 農業特性

- ・成熟期は晩で、収量は「スズユタカ」よりやや低く、子実は中粒です。
- ・ダイズモザイクウイルスに強いですが、ダイズシストセンチュウには弱いです。
- ・胚軸色が緑で花色は白であり、栽培時に他品種との識別が容易です。

(1) 生育特性

品 種 名	成熟期 (月日)	倒伏 程度	主茎長 (cm)	主茎 節数	分枝数 (本/株)	子実重 (kg/a)	対比 (%)	百粒重 (g)
きぬさやか	10.24	3.0	83	15.6	5.8	27.4	95	23.8
スズユタカ	10.14	3.0	86	17.4	5.6	28.8	100	25.3
すずさやか	10.01	3.7	83	17.2	6.4	29.7	103	24.5

注) 1. 育成地(秋田県西仙北町)における平成14～16年の平均である。
2. 倒伏程度 0:無、1:微、2:少、3:中、4:多、5:甚

(2) 生態的特性

品 種 名	開花期	成熟期	裂莢の 難易	最下着莢 節位高	倒伏 抵抗性
きぬさやか	やや晩	晩	中	中	強
スズユタカ	やや晩	やや晩	中	中	強
すずさやか	やや晩	やや晩	中	中	強

品 種 名	病虫害抵抗性								
	モザイクウイルス					ウイルス病 ほ場抵抗性	シスト センチュウ	紫斑病 病害	立枯れ
	A	B	C	D	E				
きぬさやか	強	強	強	強	弱	強	弱	やや強	やや強
スズユタカ	強	強	強	強	弱	強	強	中	—
すずさやか	強	強	強	強	弱	強	強	やや強	やや強

注) 審査基準国際統一委託事業調査報告書(平成16年3月)による。

3 栽培地域(平成21年産)

宮城県 391ha

4 栽培上の留意点

・リポキシゲナーゼ欠失等の子実成分の特性を損ねることのないよう、本品種単独の集団栽培を行うとともに、収穫・調整時に異品種が混入しないよう純度管理を徹底すること、また、シストセンチュウ抵抗性が「弱」のため、連作やシストセンチュウ汚染ほ場での栽培は避ける必要があります。

・本品種を原料とする大豆加工食品は食品メーカーと共同で特許(第3567156号)を取得しており、本品種を加工食品の原料として使用するには特許権保有者の許諾が必要です。

育成場所：東北農業研究センター(平成17年育成)
 問い合わせ先：東北農業研究センター水田利用部大豆育種研究室
 tel 0187-75-1043 fax 0187-75-1170